

巻頭言



厚板特集の発刊にあたって

野見山 裕 治*

2012年10月の新統合会社発足に伴い、世界 No.1 の商品開発技術及び製造技術を有する厚板4ミルと研究所が融合することで、国内外のマーケットにおける厚板需要とその高度化に迅速かつタイムリーに対応していく体制が整いました。今後とも、各分野のお客様から頂いた大切なニーズにお応えすることを通じて社会に貢献するために、新体制で更なる新商品や新技術の創出に向けて取り組んでまいります。

地球規模での環境問題への対応、アジアを中心とした新興国における社会インフラストラクチャ整備の進捗等々、世界経済は今まさに大きな変革期を迎えつつあります。一方、日本経済もようやく底を脱し、緩やかながらも回復基調への道筋が見えてまいりました。そうした中で厚板は、船舶需要の回復、エネルギー分野の成長、建設分野の拡大等々、社会構造基盤を支えるための重要な素材であることは変わりありません。

更に、地球環境保護やライフサイクルコスト (LCC) の観点から、省エネルギーは基より、安全性や長寿命化の要求が益々高まってきており、それを構成する素材についても対応策が非常に重要となってきました。又、構造物の大型化や製作プロセスでの高効率化が重要テーマとなってきました。鋼材の仕様についても高機能化が不可欠となってきました。これらの変化するニーズに的確且つ継続的に応え続けていくことが当社の使命であります。

一例ですが、当社の厚板においては、高強度厚手化対応商品に加え、溶接作業効率向上のための大入熱溶接対応技術や予熱作業負荷低減等について、溶接材料とタイアップした開発に継続的に取り組んでおります。特に、溶接熱影響部 (HAZ) の靱性向上技術を進化させ続けており、あらゆる分野での適用が期待できることを確信しております。

又、従来の耐候性鋼に加え、お客様の LCC を低減できるニッケル系高耐候性鋼、塗装周期延長耐食鋼、造船用耐食鋼のシリーズ化を完成させております。更に、お客様における商品価値向上の提案として耐摩耗鋼のラインアップ充実、造船用の衝突安全性に優れた鋼板等の開発及び実用化も完了させ、市場への浸透を確実に前進させているところでございます。タンク分野においても、当社が得意とする TMCP 技術との組み合わせ

* 厚板事業部 厚板技術部長

により、少ないNi含有量で従来鋼同等の特性を有する6～7%ニッケル鋼の開発と実適用化を完了し、お客様のコストダウンや省資源に寄与するべく更なる適用拡大を目指し活動を継続しているところです。

本技報では、最新の厚板研究開発の一部をご紹介します。今後も製造実力向上に全力を挙げて取り組むと共に、お客様からのご要望や信頼に確実に応えていくべく、厚板の高機能商品及び製造技術の開発を進めてまいります。加えて、それらをタイムリーにご提案することでお客様とのソリューションを積極的に展開し、社会的なニーズに対応してまいります。

今後とも引き続きご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。